



GK情報レポート

【2006年発行】

vol. 9

夏号

発行者

権田金属工業株式会社 営業部

神奈川県相模原市宮下1-1-16

電話 042-700-0221

FAX 042-700-0660

E-mail: eigyo@gondametal.co.jp

<http://www.gondametal.co.jp>

Contents

1. 高性能製品にお奨め ◎鍛造銅ボール◎
2. マグネシウム生産技術・研究開発事例紹介
 - ・『日本マグネシウム協会・工業調査団参加』～中国(北京ほか)
 - ・『第14回マグネシウム技術研究発表会』～東京・北九州
3. GKギャラリー『グループ会社・横浜伸銅株』
4. 相場情報『2006年・第3四半期見通し』

皆様でご回覧下さい

| | | | | | | | | | | |
|-------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 回 覧 印 | | | | | | | | | | |
|-------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|

※バックナンバー (Vol.1~8) をご用意しております。ご希望の方は当社営業部までお気軽にお問い合わせ下さい

権田金属工業株式会社



1. 高性能製品にお奨め◎鍛造銅ボール◎

最近、高品位を要求されるケースが増えているのがプラスチックメッキとフレキシブル基板。

いずれも大手メーカーが世界戦略製品として製造している日本を代表する産業と言えます。

そのような需要家様の期待に応えるのが権田金属のメッキ用銅アノード製品。

中でも銅ボールは全サイズとも『冷間鍛造』により製造していますので金属組織が均一で細かく

安定した溶解性を得ることが出来ます。溶け方が均一でスラッジの発生が少ないおかげさまで需要家様でも採用例が増え、お客様から高い評価を頂戴しています。

高性能製品の品質を支える**権田金属の◎鍛造銅ボール◎**自信を持ってお奨めします！



スラッジの発生が少ない！

メリット① 終始均一な溶解性

メリット② ザラの発生が少ない

メリット③ ピンホールが出難い

メリット④ 建浴回数が減る

高騰する材料費の低減に寄与します！

製品の不良率を下げ、生産性の向上に寄与します！

高性能化・高品質化の要求にお応えします！

多額のコストがかかる建浴の回数を減らせます！

通常メッキ液中には銅ボール使用量や電流量に比例してスラッジも溶け出しています。

結果としてメッキ液の上部と下部でメッキ液の濃度に差が出るため、製品へのメッキのつき方にバラつきが出てしまいます。最悪の場合にはそのスラッジが製品に付着しザラやピンホールとなるのです。

<最近の需要家様からの報告>

「ブラックフィルムの形成が均一でハガレが少ないので、
電流密度のコントロールがしやすい」

といった声も寄せられております。

<実際にご採用頂いている業界>

- ☆ 自動車・二輪車用プラスチックメッキ
- ☆ 携帯電話・モバイル用フレキシブルプリント配線基板
- ☆ 液晶・プラズマ薄型テレビ向け高性能プリント基板
- ☆ 書籍・包装印刷用グラビアロールメッキ など

◎製造工程と結晶組織◎



伸銅品製造技術で培った当社独特の工程です！

銅丸棒 — 切断 — 冷間鍛造 — 酸洗脱脂機 — 自動計量・梱包



権田金属製
鍛造銅ボール



他社製
銅ボール



他社製品と比べ、内部の結晶組織が細かく均一であることが一目瞭然です

(記者 小川)

2. マグネシウム生産技術・研究開発事例紹介

注目記事

『日本マグネシウム協会の第22回マグネシウム工業調査団に参加』

5月21日から28日まで、工業調査団の一員として中国に行ってきました。まず、22、23日の両日北京で行われた第63回 IMA（国際マグネシウム協会）年次総会に参加し、その後、山西省太原市、重慶市、上海市を回り、各地のダイカストメーカー、ユーザー、精錬所、大学、研究機関を訪問し意見交換をしてきました。

IMA 総会では、同時にセミナーや展示が行われ、セミナーには25ほどの研究発表があり、展示には中国企業を中心に69ほどの企業や研究機関が出展していました。参加者は1000名以上に上り近年でも大変盛況な会議になりました。中国のマグネシウムにかける熱意が伝わってくる感じでした。

その後の訪問では、中国におけるマグネシウム・ビジネスの盛り上がりを感じることができました。今後日本でも参考にすべき点が多いと考えています。

※次ページの写真もご覧下さい。

(記者 権田)

工業調査団のスナップ写真



右から6番目(白いジャケット)が私(権田)です

↓↓↓研究開発事例紹介(最新のものから2開催をご紹介します)↓↓↓

その1

『マグネシウム薄板の新しい製法開発について軽金属学会第110回春期大会』

[開催日] 2006年5月13日(土)～14日(日)
[開催場所] 北九州国際会議場
[主催] 社団法人軽金属学会

当社は、「マグネシウム合金展伸材の新展開—連続鋳造から成形加工まで—」と題するテーマセッションの中で、「双ロール鋳造によるマグネシウム合金板の製造」についてその研究成果を発表し、また、展示ブースにおいては、鍛造板、研磨板、絞り品、型打鍛造品等のサンプル展示を行いました。

研究発表は、研究の背景、双ロール鋳造法の特徴、鋳造板の評価、そしてまとめという流れで進められ、来場者は約50名。そして展示ブースには約100名もの方々がお立ち寄りくださいました。

ますます多くの研究者や企業の方々に当社のマグネシウム研究に期待をお寄せいただいていることを実感するものとなりました。



研究成果を発表するマグネシウム担当大野



当社展示ブース

その2

『日本マグネシウム協会第14回マグネシウム技術研究発表会』

[開催日] 2006年6月9日(金)
[開催場所] 虎ノ門パストラル 新館 5階 マグノリア
[主催] 日本マグネシウム協会

当社は、日本マグネシウム協会からの依頼により、軽金属学会第110回春期大会にて発表した「双ロール鋳造によるマグネシウム合金板の製造」について、再び研究成果を発表しました。研究発表は、当社会社概要、研究の背景、双ロール鋳造法の特徴、鋳造板の評価、マグネシウム型打鍛造品の研究、そしてまとめという流れで進められ来場者は約70名でした。

当日展示したサンプル品



AZ91研磨板



AZ91鍛造加工品



AZ61鍛造加工品

前回の軽金属学会の発表の時は、実験条件など研究内容に関する質問が多く、今回はマグネシウム板の耐食性や最終的な板幅といった、実際に実用化されたときのことを対象とした質問が多く寄せられました。ますます多くの研究者や企業の方々に当社マグネシウム板材の量産化に向けて、ご期待をお寄せいただいていることを実感するものとなりました。

二回行った研究発表会において、来場者からは数々のご質問やご意見が寄せられました。いただいたご質問やご意見は今後の研究開発にさらに役立てて参ります。

お忙しい中、当社の研究発表ならびに展示ブースにお立ち寄りくださった方々にこの場をかりて厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

なお、当社の研究する**双ロール鋳造法**は、溶解したマグネシウムを急速に凝固させるため、組織の微細化ができ、薄板を鋳造できるので圧延工程の大幅な短縮が可能となり、さらにAZ31だけでなくAZ61、AZ91、AM50、AM60等の鋳造ができるのも大きな特徴となっております。

(記者 西山・大野)

3. GKギャラリー『グループ会社・横浜伸銅株』

神奈川県・東京地区の非鉄金属・ステンレス製品のキーステーション。

横浜伸銅株は1961年権田金属工業株と福田地銅店(現メタルポート株)が共同出資して設立した非鉄金属流通問屋です(現在は権田金属のみ出資)。

主に神奈川県全域・東京都西南地区のユーザーを対象に販売しています。

取扱品目は、アルミニウム製品・伸銅品・ステンレス製品・その他鉛・

チタンなどユーザーのあらゆる要望に対応しています。

営業は営業部長を中心に4名、倉庫・配達・事務を含めて総勢16名です。

本年3月から権田源太郎(権田金属工業株社長)が当社社長を兼務し、今後は権田金属との連携をさらに強化し、一層のサービス向上につとめていきます。



◆ユーザーのニーズに素早く対応◆

従来からの棒・板の切断販売に加え本年3月よりアルミのフライス加工機を導入し加工を開始しています。フライス加工品でも、翌日納入も可能にしており、ユーザーから素早い対応に評価を得て、販売量も順調に増加しています。

◆在庫品の充実◆

本年1月より、カドミノン黄銅丸棒の在庫販売及び50mm～120mmの太物の切断販売を開始しています。

RoHS規制など環境問題に対するユーザーのニーズに応えるため、その他(カドミレス黄銅棒・鉛レス半田・鉛レス快削アルミ棒など)の御提供にも取り組んでおります。

<問合せ先>

〒 221-0045

神奈川県横浜市神奈川区

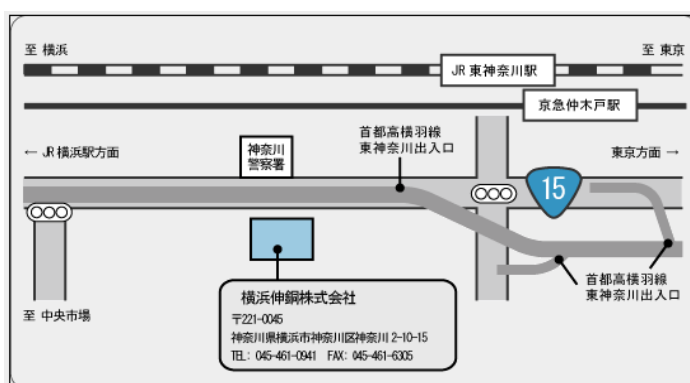
2丁目10番15号

TEL 045 (461) 0941

FAX 045 (461) 6305

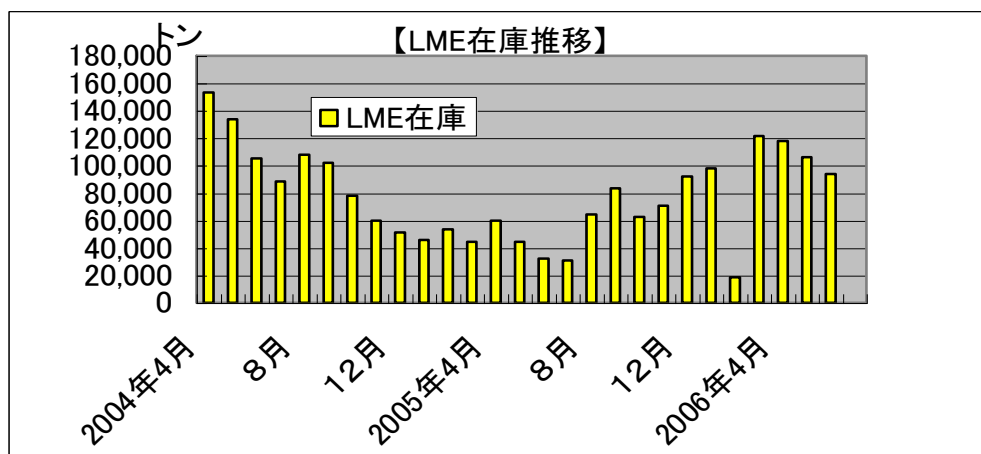
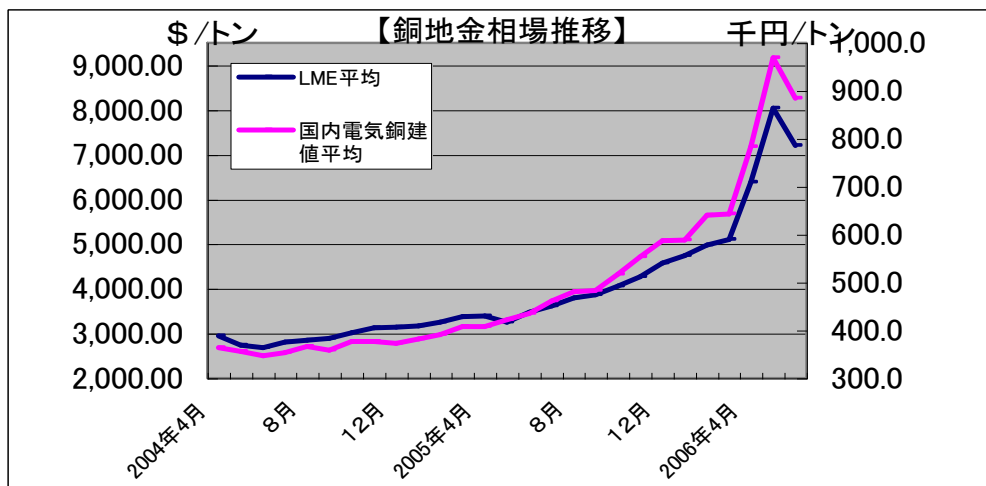
E-mail: yokoshin@crux.ocn.ne.jp

<http://www.yoko-shin.co.jp/>



(記者 鈴木)

4. 相場情報…2006年・第3四半期見通し



◆電気銅建値推移◆

4月・・・690円スタート (平均 783.5円)

5月・・・930円スタート (平均 968.8円)

6月・・・960円スタート (平均 885.0円)

7月・・・900円スタート。+30円とまた上を目指す気配である。

◆LME在庫状況及び需給状況◆

銅在庫は今年1月11日 100,400 トンを回復した。3月15日 133,975 トンをピークに再び減少傾向にある。6月末時点では 93,500 トンと非常に低水準になっている。

2006年の銅の需要見通しについては調査機関により、見方はまちまちであるが、おおむね供給が需要を上回ると見られている。但し、現時点でのLME在庫は非常な低水準のままであり国内、海外とも需要は旺盛で一部にタイト感も見られる。

◆ 高値相場の背景 ◆

今回の相場の高騰は、世界的な需給の逼迫や世界経済が堅調なことを背景にして、米国の年金ファンドなどの資金が、大挙して金や銅などの金属や石油などの商品相場に入ってきたことによるものである。一説には2006年で10兆円の投機資金が商品相場に流入し、その内約75%が石油、約7%がベースメタルで、運用されるとのことである。ベースメタルの内約50%（約3,500億円）が銅相場に入ってきているといわれている。

4月初めから5月第2週のピークまで、6週間で\$3,000以上の暴騰を演じたが（国内建値は31万円の上げ）、これなどは正に投機資金主導と思われる。

◆ 相場の見通し ◆

銅相場としては5月12日のLMEセトルメント現物\$8,788、3ヵ月先物\$8,590がピークだったものと思われる。その後、6月23日に現物\$6,710.5まで下げ（1月末相場と高値のピークから見ると約半値戻し）た後、また上げに転じている。但し、5月12日の価格を再度突き抜ける程の勢いはないようなので（もし突き抜けたら先物で\$9,000超もありえる）、今後、上げ下げを繰り返しながら、水準を下げていくものと思われる。いつどの位の水準まで下がるかは誰にもわからないが、しばらく時間をかけて下がり、3ヵ月先物で\$4,000~5,000で落ち着くという予想が多い。なお、この高値にも関わらず伸銅、電線業界ともに需要は旺盛であり、在庫補充の動きが広まってきている。

◆ 為替の見通し ◆

為替相場はインフレリスク回避の観点から投機資金が米ドルからコモディティや新興国株式へ流れていたが、流動性の低下やリスク回避に伴い、再び米ドルに還流している。市況の関心が「世界貿易不均衡への注視」から、「米国の金利引き上げ継続」に移ってきており、これら2点が米ドル高への原動力となっているようである。しかしながら、中東情勢や朝鮮半島の緊迫化、米国の利上げの打ち止り感や日本のゼロ金利解除など、米ドルへの下げ要因は依然としてあり、市場が薄いなかでの要人発言によって上下動しやすい展開となるだろう。

◆ 相場予測 ◆

短期予測（1M） : LME \$ 6,500~8,300 為替 ¥112~117 銅建値 ¥800~950
中期予測（3M） : LME \$ 5,500~8,300 為替 ¥110~118 銅建値 ¥700~950

（記者 権田）